

伊東市民病院で ございます。

Vol.23

VOICE

新看護部長インタビューと、
中途入職した看護師の声をお届けします

病院理念：市民の生命と健康と生活を守り地域発展に寄与します。



看護部長
鈴木 宏子

まずは看護部長について簡単に教えてください。

1959年のしし年、南伊豆町出身です。実家は、山奥なのに家から海が見えると有名な場所でした。

清水町や名古屋市に転勤した時を除けば、新卒入職が当病院の前身である国立伊東温泉病院だったことが縁で、既に40年以上伊東市民です。最近伊東市から「高齢者医療受給者証」が届きました。

血液型はA型です。慎重でズブズブしていて、持久力はないですが突然瞬発力を発揮するタイプです。

ガーデニングが大好きと聞きました。

そうなんです。夏はサルビアやアナベルが咲きます。草取りも大好きです。道沿いの庭なので皆さん声をかけてくださいます。通りすがりの方に差し入れていただいた饅頭を狙うカラスも結構顔見知り、そんな生活を送っています。

看護師になるうっと思っただきっかけを教えてください。

進路に迷っているとき、母の勧めで看護学校へ進学しました。ただ、志が薄かったので浜松の看護学校時代は迷うことが多かったのは事実です。

それでも、受け持ちの胃がん骨転移の患者さんにマッサージ以外の看護ができなかったことや、最終学年時に自分自身が緊急手術を受けることになって不安だったとき、看護師さんって優しいな、と思ったこと、これらの体験が原点です。今でも時々思い出します。

あと、前身である国立伊東温泉病院に入職して初めて給料をもらった時、「社会は、何も知らない何もできない新米にこんなに大金を出すの!？」と衝撃を受けたと同時に、社会の期待と責任の重さを痛感しました。それを知ってからは一生懸命勉強しましたね。

成り行きで看護師になりました。

でも今は看護師になってよかったと、心から思います。

看護部長になったきっかけは？

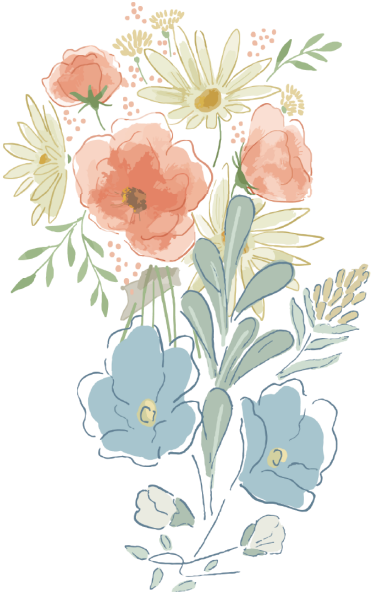
声がかかったときはまだ伊東市民病院とは別の職場にいたので、引き受けるべきか迷っていたんですが、とある方に『どうして自分から動かないの？』と言われて、ハッとしたんですね。多くの人に勇氣ある決断だと言われましたし、正直自分でもそう思います。

看護部長として取り組んでいきたいことは？

働きやすい職場づくり、もっと言うことやりがいのある看護介護ができる、そのための人間関係がよい、働き続けられる環境です。一人ひとりの思いや力が遺憾なく発揮される組織でありたいと考えます。

看護職介護職は患者さんとのいきいきとした体験から多くのことを学びます。それはそのままやりがいつながります。厳しい環境の中でも踏みとどまって看護介護を続けられているのは、その醍醐味を味わってしまったからだと思います。

患者さんに関わる時間をより多く作るために、部内の人間関係はもちろん、他職種とも良好な関係を築き、機器の導入や手間をかけすぎていることの見直しなど、環境の整備も必要になります。看護部長としては当然ですが、それぞれがその場所で自分のこととして動き出せるよう支えたいとも思っています。



お互いに信じて頼り合うという素朴な人間関係が、
更に広がり深まっていくことを祈っています。

今後の課題についてはどう考えようか。

伊東市民病院を離れ、地域住民として外から病院を眺める時間があつたことは幸運で、今となれば自分の「強み」と感じています。伊東市や賀茂保健所でのバイト経験から、地域の状況も少しつかみえました。

伊東市民病院に地域の皆さんは何を期待しているのか、診療所やクリニックの先生方はどのように役割を分担しようとしているのか。自分たちの現状とミスマッチはないか。まだ言葉にはできていませんが、速やかに発信していきたいと考えています。

地域に根ざした病院として、何といても地域を支える活動が第一だと考えます。看護部としては、看護の出前授業、認定看護師や専門看護師たちによる地域でのコンサルト活動を続けます。健康教育、認知症看護、防災などでも、私たち看護職介護職が地域とつながっていけると考えます。

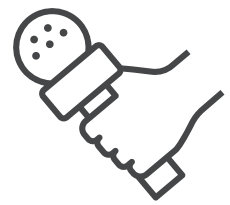
少子高齢化、人口減少、若者の都市圏集中、看護介護職希望者の減少など、時代の変化に応じた病院機能の維持が課題だと実感しています。

最後に、地域の皆さんへメッセージをお願いします。

国立伊東温泉病院時代からお世話になっております。その後の市立伊東市民病院、そして現在の伊東市民病院でも皆さんにご意見をいただきながら病院づくりをしてきました。

医療従事者として皆さんに信頼されると言うのは当然のことですが、それと同時に、私たちも皆さんを信頼するという関係性を築くことが大切だと思います。

お互いに信じて頼り合うという素朴な人間関係が、病院という場所でさらに広がり深まっていくことを祈っています。
これからもどうぞよろしく願います。



中途入職者に訊いてみた!働いてみてどう?

Vol.1 手術・中央材料室 石井 大貴

以前はどこに勤めていましたか?

横浜市にある病院の手術室に勤務していました。500床以上の病院で、手術の件数も年間4900件でしたので、毎日一日中手術をしているような感じでした。

当病院を選んだ理由を教えてください。

横浜から少し離れたところで、とっていました。手術室のある病院を探していたのですが、熱海だと少し近いと感じたので伊東を選びました。ちょうど、伊東市が『医療・福祉人材確保のための新生活応援事業』で支援をしていたことも大きかったと思います。いろいろな援助があったのでとても助かりました。

当病院で働いてみてどうですか?

伊東市民病院の手術室は、年間の手術件数が1300件くらいと聞いています。以前働いていた病院の約4分の1です。そのためか、以前はとにかく数をこなすために必死になっていたことが多かったのですが、伊東市民病院では安全を第一に考えてリラックスして働くことができます。

10月の入職でしたが、手術室のスタッフはみんな親切で、仕事に関してはなんでも丁寧に教えてもらいました。入職していきなり夜間オンコールなどに入ることもなく、慣れるまで無理なく働けるような環境を整えていただきました。

今現在はリーダー業務もすることとなり、その日は自分が中心となって業務を回していることもあります。中途採用にありがちな疎外感とか仲間はずれ感といったことはありませんでした。また、院内の温泉がすごく快適で、ほとんど毎日入ってリフレッシュしています。

プライベートはどう過ごしていますか?

横浜の友人がよく遊びに来ます。伊東は首都圏からほどよい距離なので来やすいようです。先日は海岸でバーベキューをして楽しみました。お酒が好きなので、職場の皆さんとも飲みに行きますが、魚を中心に美味しいお店が多く、充実した余暇を過ごしています。また、ずっと野球をやっていたのですが、病院の部活動として野球部もあり、まだ積極的に参加していませんが、今後機会があれば参加していきたいと思っています。

最後にメッセージをお願いします。

伊東に来て間違いはなかったと思っています。既卒者が働きやすいと感じました。他の病院で働きたいと考えている看護師の皆さんにお勧めできると思います。

**ホームページ及び
各種 SNS にて
情報発信中!**



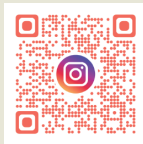
ホームページ



YouTube



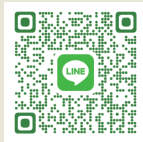
X



Instagram



臨床研修センター
Facebook



看護部
LINE

